

南達交通安全新聞

「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」

運動期間

平成28年12月10日(土)

～平成29年1月7日(土)までの29日間

運動スローガン

「こんぼんは 早めのライトで ごあいさつ」

運動重点

- (1) 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
(特に、反射材用品等の着用の推進)
- (2) 後部座席を含めた全ての座席のシートベルトと
チャイルドシートの正しい着用の徹底
- (3) 飲酒運転の根絶



第27回 南達交通安全大会



南達一市一村にあっては、交通量が増加しており、これに伴い交通事故の発生も増加する可能性を持っています。

さらに、高齢化社会を迎え、全国的にもお年寄りの犠牲者があとを絶たないことから、事故防止のための抜本的対策を講じる必要性に迫られております。

本大会は、このような情勢をふまえ、南達一市一村が一丸となって総合的な交通事故防止対策を推進することを目的とし、11月12日(土)に大玉村の農村環境改善センターで開催されました。

大会では、交通安全功労者及び交通安全作文コンクールの表彰式も行われました。



～交通安全功労者表彰を受ける 遠藤武男さん～



－アトラクション：大玉村保育所(左)と本宮高等学校合唱部(中)同校よさこい愛好会(右)－

南達交通対策連絡協議会

本宮市・大玉村交通対策協議会 郡山北警察署本宮分庁舎

◎表彰状伝達

東北管区警察局長・
東北交通安全協会会長連名表彰

【交通安全功労者】

遠藤 武男 (本宮市)

【優良運転者】

齋藤 マキ (大玉村)

交通安全章 (緑十字銅章)

【交通安全功労者】

石川美樹夫 (本宮市)

【優良運転者】

佐々木正信 (大玉村)

野内 謙一 (本宮市)

遠藤 基栄 (本宮市)

県交通対策協議会長表彰

加藤 悦子 (本宮市)

県警察本部長・

県交通安全協会会長連名表彰

【交通安全功労者】

小林 守 (本宮市)

菅野 健二 (本宮市)

館下 憲一 (大玉村)

【優良運転者】

松本代四信 (本宮市)

武田 利和 (本宮市)

佐藤 宮子 (本宮市)

橋本 敏雄 (本宮市)

高橋 新一 (本宮市)

川井 真一 (本宮市)

遠藤吉太郎 (本宮市)

【交通安全優良学校】

本宮第一中学校 (本宮市)

◎感謝状贈呈

前本宮地区交通安全協会会長
登柳 尚武 (本宮市)

前本宮地区安全運転者協会会長
国分 一幸 (大玉村)

前本宮市交通安全母の会連合会長
平 佳子 (本宮市)

◎地域別交通事故防止コンクール

第1位

本宮地区交通安全協会第5分会 (本宮市)

第2位

本宮地区交通安全協会青田分会 (本宮市)

第3位

本宮地区交通安全協会和田分会 (本宮市)

第4位

本宮地区交通安全協会岩根分会 (本宮市)

第5位

本宮地区交通安全協会第4分会 (本宮市)

第6位

本宮地区交通安全協会玉井分会 (大玉村)

◎交通安全作文コンクール

応募総数894点 内訳 小学生274点

中学生478点

一般 142点

【小学生低学年の部】

最優秀賞 糠沢小学校 3年 吉村ひなた

優秀賞 本宮小学校 2年 下垣 怜来

佳作 本宮小学校 3年 伊東 慧

玉井小学校 2年 平田 悠希

岩根小学校 2年 栗原 光輝

白岩小学校 1年 富塚 京汰

【小学生高学年の部】

最優秀賞 大山小学校 5年 高橋 来己

優秀賞 玉井小学校 6年 橋本 詩乃

糠沢小学校 4年 安齋 歩珠

大山小学校 5年 伊藤 ひな

大山小学校 6年 野口 晃汰

白岩小学校 6年 渡辺真菜美

【中学生の部】

最優秀賞 白沢中学校 2年 柴原 もも

優秀賞 大玉中学校 2年 鈴木 茉愛

本宮第二中学校 3年 鈴木 雄貴

本宮第二中学校 2年 三浦 美咲

大玉中学校 1年 生方 音羽

大玉中学校 2年 國分 樹里

【一般の部】

最優秀賞 本宮高等学校 1年 佐藤 青葉

優秀賞 本宮高等学校 1年 菅野奈都美

本宮高等学校 1年 佐藤紗理奈

本宮高等学校 1年 根本 夏稀

本宮高等学校 1年 押山 英生

本宮高等学校 1年 高島 真桜



最優秀賞の表彰を受ける

大山小学校5年 高橋 来己さん

小学生低学年の部

【最優秀賞】

『ちゅういをわすれずに』

糠沢小学校3年 吉村 ひなた

交通事故のニュースは、毎日のようにテレビでほうそうされています。ついこのあいだも、ふくしまけないの小学五年生が、じてん車にのって、せまい道から広い道に出た所で車にぶつかり、なくなったという事がありました。きつと一ど止まって左右をかくにんするということをわすれてしまったからではないかと思えます。わたしもじてん車にのり出かけることがあります。いつも家の人がら、

「まがり角の所はかならず止まって、右左を見るんだよ。ヘルメットをかぶって行くんだよ。」

と、言われます。だから、わたしは、お兄ちゃんのおゆずりで、少しぶかぶかだからヘルメットをかぶりたくないけれど、ヘルメットをかならずかぶります。そしてまがり角の所はいつもかならず止まります。だからじてん車にのってあぶな一と思つたことは、ありません。なくなつた小学生もいつもはきつと止まっていたと思えます。でも、その時たまたま止まるのをわすれたのかも知れません。事はいつおこるかかわらないので、こわいなと思えます。

じつは、わたしもついわすれてしまったことがあります。それは、お兄ちゃんのスッカーの練習が終わり、家に帰る時のことです。くらい道を走っていると、タヌキが急に、とびだしてきました。うんてんしていたお母さんは、おどろいて、大きな声をだすとうじに、急ブレーキをかけました。その時すわっていたわたしは、前にあつた物にいきおいよくぶつかり、口びるを切っていました。いつもなら、かならずシートベルトをするのに、その日は、ついわすれてしまつていたので、シートベルトをわすれると、こんなたいへんなことがおきるんだと思いました。シートベルトの大切さがよく分かりました。

交通安全のきまりは、家でも学校でも言われています。わたしも今では、かならずシートベルトをしています。だいじょうぶだろうというゆだんが、ついわすれてしまうことにつながるのだと思えます。「自分のいのちは自分でまもる」ためにちゅういをわすれずに、きまりをまもっていきたいと思えます。

小学生高学年の部

【最優秀賞】

『自分の命は自分で守る』

大山小学校5年 高橋 来己

ぼくは友達と友達の弟と、プールに行く約束をしました。自転車でプールに向かうと中、とつぜん後ろから音がしました。ふり返ってみると、友達の自転車、電信柱にぶつかり、たおれていたのです。友達は、ヘルメットをかぶっていたので頭は大丈夫でしたが、スピードが出ていたので、しょうげきでせ中から地面にたたきつけられるようにたおれていました。友達はいたそうにしていました。事故に気付いた近所の人が、

「だいじょうぶ？ 救急車呼ぶよ？」

と云ってくださいました。でも友達は、

「呼ばなくていいです。」

と云って立ち上がりました。ぼくたちはそのままプールに行きました。でも友達は、

「せ中がいたい。」

と云っていたのですぐ帰りました。その時ぼくは、去年自分が自転車で転んでこつ折した時の事を思い出しました。転んだ時は軽いけがだと思つたけど病院へ行つたらこつ折していたのです。友達も病院へ行つた方が良く思いました。事故の直後は、かなりのこうふん状態になるので、けがの状きょうに自分でも気が付かなくなるそうです。救急車を呼んであげればよかつたと思いましたが、

ぼくも友達も命に関わる事故ではなかつたけれど、毎年交通事故で亡くなる人はあとをたちません。去年交通事故で亡くなった人の数は四千百十七人で、十五年ぶりに増加したそうです。

そもそも、なぜ交通事故が起こるのでしょうか。その原因は、ちよつとした事だとぼくは思えます。

「急いでいるから別にいいや。」

「車が来ていないから別にいいや。」

「別にいいや。」と気がゆるみ、やっではいけないことだと分かっているもやっしてしまう。交通事故は、そのすき間で、待ち構えているのではないのでしょうか。その結果、どれだけ大変なことが起きるのかをあらためて考えてみてほしいと思えます。交通事故は体にはげを負うだけではなく、人の心にもげをさせてしまうのです。事故で苦しむのは自分だけではなく、親や周りの人、ぼくに関わるすべての人なのです。

交通ルールを守るといふことは、つまり自分の命を守ることなのです。一人一人が自分の命を守ろうと思うだけで、自然と交通ルールは守られるはずで、

ぼくはこれから自転車に乗る時は、右左を確にんし、信号が青でも安心せず、周りを見て、みんなのめいわくにならないように運転したいと思えます。

中学生の部

【最優秀賞】

『油断』と『危険』

白沢中学校2年 柴原 もも

「油断」をすると、「危険」がうまれてきます。特に、車や自転車の運転をする時は、ささいな「油断」が大きな「危険」につながります。

私は中学校に入学してから、自転車通学をしています。登校時はほとんどの道が急な上り坂ですが、逆に下校時には急な下り坂になります。先日、部活動が終わって家に帰る途中、つい（このスピードならブレーキもすぐにできるだろう。）と思い、かなりのスピードで坂を下っていました。この時は、（ちゃんとスピードを意識しているから、大丈夫だ。）などといったことを考えていて、あきらかに「油断」をしていました。坂もどんどん急になっていき、一つのT字路にさしかかってきました。そのT字路は、夏にはたくさんの草がおおいしげっていて、見通しがあまりよくありません。それでも、普段めったに車が走っていないので、その時もスピードを変えずにそのまま通りすぎようと思いました。（エンジン音もしていないし、車は来ていないはず。）とも思っていました。しかし、あと少しでT字路にさしかかるといふとき、急に車が飛び出してきたのです。

「キーン。」

幸い車とはかなりの距離を保つての急ブレーキだったので、ぶつかることもなく、運転手が私に気づくことのないまま、車は走り去っていきました。（もう少しスピードを上げていたら、今頃は・・・。）そう考えると、急に寒気がして、ゾッとしました。

今回私は、かなり「油断」をしていたと思います。（これぐらいなら大丈夫。）といった安易な気持ちで、もしもタイミングが悪ければ、最悪、私は今頃いなくなっただけかもしれません。（これぐらいなら。）（まだ大丈夫だ。）そんなささいな「油断」は、とても大きな「危険」を生み出します。私はいつも、定期的に自転車の安全点検をし、下り坂に入る前は必ずブレーキチェックをしています。だから、どんな場合でも安全確保だけはできると考えていました。しかし、目だけ、耳だけでは、確実には判断できません。実際に止まって、安全かどうかをしっかりと判断しなかったなら、「危険」が生まれてきます。それは、自分の責任です。自転車の飛び出しなど、「油断」から生まれてくる「危険」は、どんなに反応が速かろうと、とっさに身の安全を確保することは、ほとんどが不可能です。この「危険」から身を守るための第一の方法は、「油断」をせず、しっかりと一時停止などをして安全を確かめることです。

だから私は、これからも「油断」をせず、しっかりと安全運転で走行するように気をつけたいと思います。

一般の部

【最優秀賞】

『交通事故に遭わないために』

本宮高等学校1年 佐藤 青葉

私は、時々テレビのニュースや新聞などで交通事故を目にします。事故の原因はたくさんあります。例えば、運転手側で言えばブレーキとアクセルの踏み間違いやスピードの出し過ぎ、信号無視、よそ見などがあり、歩行者側では、歩きながらのスマホや信号無視があります。自転車も急に飛び出してきたり、ながら運転をしたりという原因が考えられます。最近日本でもできるようになった「ポケモンGO」が流行し、ながらスマホによる事故が増えています。

私は、母と買い物をした帰り道に信号のない所で曲がろうと思いついたら、後ろから車が追突してきて交通事故が起きてしまいました。一瞬の出来事だったし、初めての交通事故だったのでとても怖かったし、何をすればいいのか全然分かりませんでした。相手の人は何かを拾おうとしてよそ見をしていたそうです。そこまでひどい怪我はしなかったのですが、車が壊れ廃車になったり、病院に通ったり大変でした。私にはよく分かりませんが、母は保険の話などいろいろながあつても忙しそうでした。

歩行者は、運転手側に比べると事故はそれほど多くはないと思いますが、スマホやゲームに夢中になっていて周りを見ていないと、車や自転車に引かれたり突っこんでしまったりしてしまいます。事故で命を落とすしまうのはとても悲しいことだし、つらいことだし、そのようなことはしたくないと思います。

運転者、歩行者、自転車に乗っている人は特に気をつけなければいけません。交通事故は予想出来るものではないのでいつ起こるか起こしてしまうか分かりません。歩行者には、学校に通学している小さな子どもも多いと思います。だから、互いに交通ルールを守り細心の注意をはらう必要があります。そして、学校の近くには毎朝交通安全のパトロールをしている人や地域の人達がいいます。そしていつも私達を見守ってくれています。私自身は気付かないこともあると思いますがいつも誰かが見守ってくれているので安心します。このように地域の人々も交通事故対策に取り組んでくれています。

大切なことは、自分の命は自分で守ること、そして、道路を使う誰もが皆それぞれルールを守り生活すること、地域ぐるみの活動が大切だと思います。